平塚の石仏めぐり

3、須賀編

阿弥陀如来：高浜台 28-17

石仏豆知識２．阿弥陀如来

阿弥陀如来は、西方（さいほう）の極楽浄土に住まわれている無限の光明と寿命を持つ仏様で、浄土宗や浄土真宗、時宗などの浄土系寺院や天台宗の寺院でよく見ることができます。

阿弥陀如来を信仰する浄土教は、７世紀初め頃日本に伝来し、末法思想が蔓延（はびこ）っていた平安時代末期「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えることにより、死への不安を取り除き極楽浄土へ導いてくれるという教え（浄土信仰）が人々の大きな支持を得るようになり、たくさんの仏像や寺院が作られました。

阿弥陀如来像を見分ける特徴は印相（いんぞう）（手の形）にあり、9種類の往生印があります。その一つは両手をお臍（へそ）の前で合わせ各々二本の指で輪を作る印相で弥陀定印（みだじょういん）といい、鎌倉高徳院の大仏（銅像）が代表的なものです。

市内の石仏としては、阿弥陀如来像が１５基、阿弥陀三尊像が４基あり、年代不詳の１基を除きすべて江戸中期の造立です。

鎌倉高徳院の大仏（阿弥陀如来）

須賀の石仏

現在の高浜台、札場町、幸町、千石河岸、夕陽ヶ丘、代官町、久領堤などの範囲は、江戸時代には須賀（すか）という一つの村でした。相模川河口に位置する旧須賀村は、物資の集散地として栄え、「大山千軒、須賀千軒、南湖は三百六十軒」という言い方からもその繁栄ぶりがうかがわれます。天保 12 年刊『新編相模國風土記稿』による 452 もの戸数は市域の旧村で最多です。明治 22 年に馬入村と合併して須馬村となり、昭和 4 年に平塚町、同 7 年から平塚市の一部となりました。

鎮守の三嶋神社は 7 月 20 日前後の土日曜日に例大祭が行われます。北町、横町、仲町、南町、西町、代官町の六町ごとに神輿を担ぎ、宮神輿とともに海岸へ浜降りします。寺院は真言宗の長楽寺と乗蓮寺、浄土宗の海宝寺、日蓮宗の善性寺があります。

須賀には 206 基の石造物が存在しています。その特色を 4 つ挙げます。第一に、17 世紀造立の古い石造物が 16 基も残されていることです。第二に、江戸・明治期に造立された石造物の約 9 割が硬質な安山岩製で、須賀湊を通して真鶴からの石材が供給されました。第三に、庚申塔が全石造物の 8% を占める 18 基も造立されていることです。第四に、お阿弥陀様やブリ網奉納塔など、水産業をなりわいとした須賀独特の石造物が見られることです。このマップを片手に特色ある須賀の石造物をめぐってみましょう。

須賀の石仏所在地と主な石仏

番号	名　称	住　所	主　な　石　仏
1	善性寺	夕陽ケ丘 45-6	題目塔、鬼子母神、浄行菩薩、釈迦如来、馬頭観音他
2	三嶋神社	夕陽ケ丘 60-27	狛犬、灯籠、奉納塔、庚申塔、地蔵、道祖神他
3	久領堤路傍	久領堤 4-23 東	庚申塔
4	観音堂	札場町 35-5	観音
5	御宇気神社	札場町 39-18	狛犬、手水石、灯籠、鳥居
6	札場町路傍	札場町 28	庚申塔
7	札場町路傍	札場町 26-14	道祖神
8	横町台町稲荷社	札場町 15-20	道祖神、庚申塔、観音他
9	横町正一位稲荷社	札場町 46-6	道祖神、庚申塔、鳥居
10	朝霧公園内	千石河岸 29-9	史跡碑、石祠
11	港稲荷神社	千石河岸 30-1 北	神名塔、稲荷、道祖神、狛犬他
12	乗蓮寺	札場町 15-26	仁王、地蔵、六地蔵、大日如来、宝篋印塔他
13	長楽寺	札場町 15-42	震災供養塔、地蔵、庚申塔、大日如来、道標他
14	海宝寺	幸町 26-21	阿弥陀如来、阿弥陀三尊、経塚、徳本名号塔、庚申塔、宝篋印塔、馬頭観音他
15	南町稲荷社	千石河岸 24-8	道祖神
16	竜宮社	千石河岸 57-7 東	竜宮、神名塔、石祠、奉納塔
17	国道 134 号線路傍	千石河岸 51-10	地蔵、観音
18	稲荷山神社	高浜台 21-21	不動明王、庚申塔、狛犬他
19	御阿弥陀様	高浜台 28-17	阿弥陀如来、動物供養塔、名号塔他

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は平成 26 年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（3. 須賀編）
発行日：平成 30 年 11 月
編　集：石仏を調べる会
発　行：平塚市博物館
住　所：神奈川県平塚市浅間町 12-41
電　話：0463-33-5111

三嶋神社の石仏　（地図番号②）

旧須賀村の鎮守で、祭礼には浜降りといって神輿が海辺へ巡幸します。明治の中頃まで須賀は物資の集散地として繁栄、漁業や廻船業で多くの人が生計を立てていました。

漁業関係者の奉納塔　社殿前にある一対の灯籠は明治 21 年建立で、大正 15 年に再建され、台石に世話人・修繕人として当所魚仲買商、八王子や東京の魚問屋など百名近くの名が刻まれています。他にも、境内には自然石に「奉納　金四百圓　須賀鰤大謀網舩方（ぶりだいぼうあみふなかた）一同　大正十年五月」と刻んだ奉納塔があります。裏面には「舩方人名」として須賀、大磯、小田原、二宮だけでなく房州、伊豆などの合計 160 名が刻まれています。須賀では大正末から昭和初期にかけて大規模なブリの大謀網漁が行われていたことがうかがえます。また、角柱の奉納塔や玉垣に「井」「サ」など水産加工業、魚屋、魚の仲買商などの家印（いえじるし）、屋号が付けられ往時を偲ばせます。

社殿前の灯籠
(明治 21 年 (1888) 建立 大正 15 年 (1926) 再建)

鰤大謀網の奉納塔
(大正 10 年 (1921))

乗蓮寺の石仏　（地図番号⑫）

花翁山観音院乗蓮寺といい高野山真言宗に属し本尊は十一面観音です。

仁　王　山門前に小学生の背丈に近い一対の石造仁王が立っています。向かって右が阿形（あぎょう）、左は吽形（うんぎょう）で、裸の上半身に天衣（てんね）がひるがえっています。記録によると元は三嶋神社にあり、今から 250 ～ 260 年前の宝暦頃のものらしいとあります。仁王の石像は市内唯一のもので全国的にも少なく、県内でも近代までのものは 6 基しか確認されていません。睨みつけるというより、少しユーモラスな仁王様です。

大日如来　墓地入口の右側に瞑想するような端然とした美しい大日如来が蓮弁台座（れんべんだいざ）に坐（ざ）しています。市内で二番目に古い寛文 13 年の建立で、保存状態が良く見応えがあります。

その他　六地蔵の梵字が彫られた地蔵 (寛文 2 年）や宝篋印塔 (宝暦 13 年) など多くの見応えのある石像物があります。

山門前の仁王
(宝暦年間頃の建立 (推定))

大日如来
(寛文 13 年 (1673))

長楽寺の石仏　（地図番号⑬）

長楽寺は高野山金剛峰寺直属の末寺で、相模国の中本寺（ちゅうほんじ）として末寺十三寺を持つ大変古い寺と伝えられています。

門をくぐると境内右手奥に石仏群が整然と並んでおり、前列左手より震災供養塔と 4 基の庚申塔、後列に 2 基の宝篋印塔と 2 基の大日如来像が佇（たたず）んでいます。

庚申塔　4 基の庚申塔のうち、左端にある両脇に二猿を従えた青面金剛庚申塔は、造立年代は不詳ですが、湘南地区における 17 世紀中葉の民間信仰のあり方と、青面金剛と三猿が庚申塔の刻像として全国に定型化していく祖型として、資料的価値が高く貴重な石造物です。これと同じ像容の塔は、平塚 2 基、茅ヶ崎 3 基、寒川 1 基、藤沢 1 基とこの地域に限って計 7 基存在し、ほぼ同時期に造立されていることが確認されており、いずれも神奈川県指定重要文化財で全国的にも珍しい庚申塔です。

右端の不見不言不聞の三猿像が大きく刻まれた貞享 4 年 (1687) 造立の庚申塔は、青面金剛をあらわす梵字「樺（ウーン）」を頂点に、三猿をピラミッド型に配置するなど、二段に三尊形式に浮彫されている市内唯一の庚申塔です。

大日如来　後列に配置されている 2 基の大日如来坐像は、造立年代は不詳ですが、何れも宝冠部に胎蔵界（たいぞうかい）五仏を表す梵字が刻されており、金剛界を表す智拳印（ちけんいん）を結んでいます。先の大戦時に火を蒙（こうむ）ったのか、石肌が黒っぽく変色していますが、長年の風雨に耐えて今なお完全な姿を残しています。

震災供養塔　左端に立つ関東大震災供養塔は、当時の須馬（すま）村で亡くなられた方々の三回忌に当たって大正 14 年 (1925) に造立されたものです。塔正面頂部には梵字で大日如来の報身（ほうしん）真言と光明真言が、側面には亡くなられた 75 名の氏名が刻まれています。

前列左より、震災供養塔、庚申塔 4 基、
後列 宝篋印塔 2 基、大日如来 2 基

青面金剛庚申塔
(年代不詳)

三猿庚申塔
(貞享 4 年)

大日如来
(年代不詳)

海宝寺の石仏　（地図番号⑭）

海宝寺は常園山智光院と号する浄土宗の寺院です。浄土宗寺院では十夜（じゅうや）法要が秋にひろく行われており、海宝寺のお十夜は、相模三大お十夜のひとつと言われるほど盛大でした。現在は 10 月 15 日に法要が行われています。

海宝寺の石塔群　山門を入り、本堂に向かって左側に立派な石塔 6 基が並んでいます。これらはすべて関東大震災で倒壊し、一部は境内に仮置きされていたものを修復し、石造物の各部を補修し、刻銘も彫り直し、現在のような石塔群に整備されました。この石塔群の周囲は、低い壁で囲まれており、お盆にはここに水を張り灯籠流しが行われます。

なお石塔群の中央には、文化 14 年 (1817)6 月 21 日銘の徳本名号塔があり、徳本上人独特の筆跡の名号と署名、花押が刻まれています。『徳本行者全集』の中に、上人が同年 10 月 26 日海宝寺に宿泊され、翌朝名号塔に開眼供養（かいげんくよう）したとの記述がありますが、この塔のことと思われます。

左より、宝塔 (年代不詳)、万霊塔 (明治 4 年)、徳本名号塔 (文化 14 年)、
阿弥陀三尊塔（元禄 4 年）、名号塔 (天和 4 年)、経塚 (文政 7 年)

三猿庚申塔　本堂に向かって山門脇右側に、阿弥陀如来座像が鎮座している無縁塔があり、その右側に一部上部が欠損した三猿庚申塔があります。

寛文 6 年 (1666) に造立されたこの庚申塔は、茅ヶ崎市浜之郷の龍前院で初見された「龍前院型」と分類されているタイプで、市内には 4 基あります。

龍前院型は、三猿の足を平行に下ろす姿勢に加えて、頭が大きく、肩の位置が高く、腰を浮かせ、ふっくらとした彫りが特徴です。

三猿庚申塔
（寛文 6 年）

阿弥陀三尊　墓地内のほぼ中央部に位置するこの阿弥陀三尊像は、延宝 3 年 (1675) の造立で、阿弥陀如来を真ん中に、向かって右側に脇侍（わきじ）の観音菩薩、左側に勢至菩薩（せいしぼさつ）が彫られ、非常に素晴らしい彫りをした石仏です。

三尊像の下には、3 名の戒名と僧侶のお名前が刻まれており、蓮弁（れんべん）部にはこの石仏の建立者と思われる念仏講の仲間である尼僧 4 名と 13 名の女性たちの名が刻まれています。

阿弥陀三尊
（延宝 3 年）

横町台町稲荷の石仏　（地図番号⑧）

稲荷社片隅の二つの祠内に、庚申塔 2 基、如意輪観音（にょいりんかんのん）(寛政 11 年 (1799) 造立）1 基と、道祖神 (慶応 4 年 (1868) 造立) がそれぞれ大切に祀られています。一つ目の庚申塔は四臂（よんぴ）青面金剛像と三猿像が彫られ、貞享 3 年 (1686) に造立されています。もう一つの庚申塔は六臂（ろっぴ）青面金剛像と三猿像および日月が彫られており、享保 9 年 (1724) に造立されています。

庚申塔（左 貞享 3 年、右 享保 9 年）

竜宮社の石造物　（地図番号⑯）

湘南大橋の袂に、海に向かって高さ 2 m程の石祠 (年代不詳) があります。地元では「リュウゴンサン」と呼ばれ、女神で漁の神様として、漁業関係者の信仰を集めていました。今でも 2 月と 9 月に三島神社の神主により祝詞（のりと）があげられています。この石祠の横には鰤大謀網の奉納塔が 2 基あり、このうち 1 基は、三島神社にある奉納塔と同年月の大正 10 年 5 月に建てられています。

左より竜宮社 (石祠、木祠)
奉納塔（昭和 2 年、大正 10 年）

お阿弥陀様の石仏　（地図番号⑲）

お阿弥陀様　高浜台の一角に「お阿弥陀様」と呼ばれる石仏があります。阿弥陀如来坐像は台石を含め 4 m余の高さがあり、台座正面に「海上安全」と刻まれ海を向いて建てられています。銘文によれば、宝永年間 (1704 ～ 1710) 覚譽上人により建立されたが、その後砂に埋まってしまい漁業関係者らが寄付を募って弘化 2 年 (1845) に再建されたとあります。

敷地内には数多くの海難供養塔があり、8 月 16 日には海宝寺住職による浜施餓鬼（はませがき）が行われ、海難者の供養と海上安全の祈願をしています。

お阿弥陀様 (弘化 2 年）

亀の供養塔　たくさんの供養塔と並んで、大正 9 年 (1920) に建立された亀の供養塔があります。正面に「爲亀霊菩提」の文字と亀の姿が線刻されています。昔から亀は縁起のよい生き物と考えられ、浜に上がった亀を見つけると酒を飲ませ、放してやると後で大漁に恵まれるという言い伝えがあり、大漁の神、海上安全の神として漁業関係者から大切にされています。

亀の供養塔 (大正 9 年）